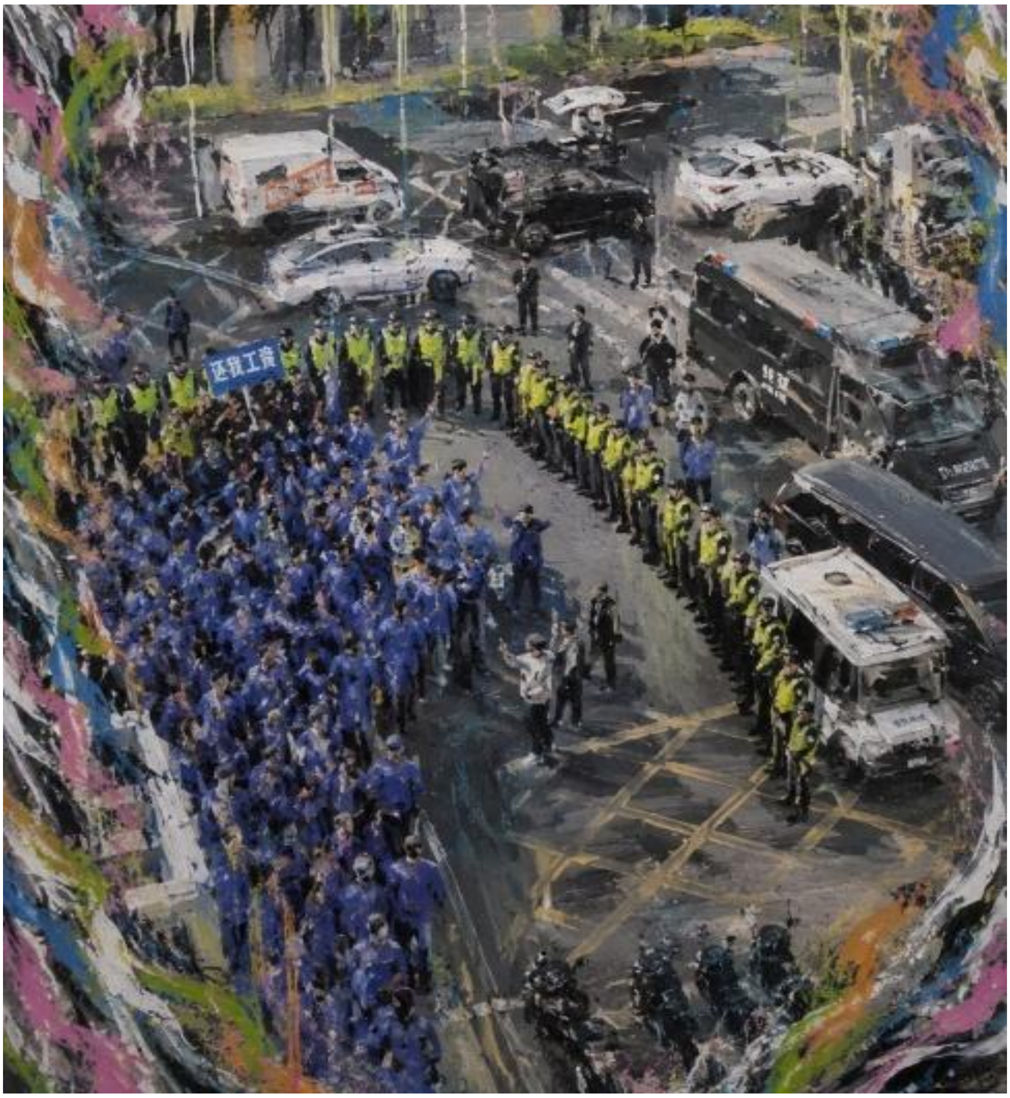


検閲される前に　中国の抗議活動を記録してきた人びと

「多くの人は抗議行動を狭く捉えがちです。つまり、目標を達成できなければ意味がないと考えてしまうのです。しかし実際はそうではありません。抗議のプロセスが当事者を変えるのです。一つの抗議に参加すれば、二つ目の抗議にも参加するかもしれません。これらの中国人がどのような理由であれ抗議に参加し始めたのであれば、彼らは無意識のうちに変わっていくのです」

WOMEN 我們　2026 年８月２日 https://women4china.substack.com/p/yesterday-freedom-house



文　章　　｜　Yalin
編　集　　｜　于深林
レイアウト｜　田昀

彼らのことを「検閲官とイタチごっこをする人々」と想像してみるとよいだろう。抗議者たちの映像は、インターネットのあらゆる隅々でランダムにきらめき現れる。ある時は、検閲官が彼らを先に見つけ、その声をかき消してしまう。またある時は、彼らが検閲官を出し抜き、抵抗の映像が残される。多くの場合、彼ら自身にも、なぜ検閲官がその投稿を削除しなかったのか、或いは、なぜかなり後に突然それを削除したのかは分からない。

これこそが、数年間にわたり「昨日（Yesterday）」と「異言網」が続けてきた努力――この国の抵抗の声を記録することである。そして抗争の映像を記録し、留めておくことは、中国を理解するためのあなたの視点をも変えていくのだ。

高圧的な時代の中国に、抗議はいまだ存在するのか？

今年 2 月、異言網は中国の抗議状況に関する第 11 次報告書を更新した[1]。2025 年第 4 四半期に合計 1363 件の抗議事件が収録され、そのうち労働者が主導した抗議活動が半数を超えている。報告書によれば、国有企業における「賃金未払い」現象がますます一般的になっており、2025 年の大手国有企業 3 社（「中国建築グループ」「中国国家鉄路グループ」「中国交建グループ」）における労働者の抗議活動は 2024 年より 79%増加した。全体として、2025 年通年の抗議活動は 2024 年より 44%増加している。

2022 年 6 月以降、異言網がこれまでに収録した抗議事件は計 1 万 5600 件に上る。その主な収録対象は中国本土におけるオフラインの公開的な集団行動だが、公開性の低いものやオンライン上の異議申し立て事件も記録されている。彼らの調査によると、2024 年第 2 四半期以降、中国の抗議事件は 6 四半期連続で前年同期比増加を記録している。

データによる記録と分析は、多くの人が抱く中国の沈黙した現実という印象を覆すかもしれない。「私が出会った中国人のほとんどは、この事実にとても驚いていました」と異言網の研究グループリーダーであるケビン・スラテン（Kevin Slaten）氏は語る[2]。

ケビンはアメリカ人で、流暢な中国語を話す。過去 10 年余りの間に、彼は中国の市民社会に関心を持つ政治学の学生から、市民社会および人権分野の研究者・アドボケイトになった。

多くの人にとって、今日の中国の社会環境は非常に高圧的であり、かつての権利擁護活動家や陳情者、人権活動家たちの物語はすでに過去のものとなっている。「抗議などほとんど不可能だ」――これはケビンがよく耳にする言葉である。



異言網のウェブサイト（出所：異言網）https://freedomhouse.org/zh-hans/report/china-dissent-monitor

しかし異言網が収集した事例は、労働、不動産トラブル、土地立ち退き、婚姻の平等、教育などのテーマを網羅している。全体として、製造業の集中する広東省が最も多くの抗議事件が収録された省となり（18%）、次いで河南省（10%）となっている。労働者の抗議活動と住宅購入者の抗議活動がすべての抗議の中で最大の 2 つのテーマであり、それぞれ 44%と 26%を占めている。数字が中国の抗議マップの全体像を完全に代表するわけではない。しかしそれでもこれは、胸を打つ「闘争マップ」であり、中国の現実や経済情勢を把握するための民間データベースでもある。

抗議参加者たちはあまりにも普通の人々であり、まさに私たちのすぐ身近にいる。例えば、2025 年 1 月に四川省宜賓市のある労働者が飛び降り自殺をほのめかすことで未払い賃金の支払いを求め、関連投稿のコメント欄には、他にも数ヶ月間賃金を未払いにされている 20 人余りの労働者たちが、数日後に「集団で屋上に上がる」予定であると書き込まれていた。同月には、団地の駐車スペース管理問題を巡り、湖南省長沙市の新城国際花都エリアの住民たちが団結して団地のゲートを押し倒した。4 月には広東省恵安県東鎮の村民たちが火力発電所の工事に集団で抗議し、多数の公安人員が現場に派遣された。7 月には陝西省西咸新区の数百人の保護者と学生が中学の学区の受け入れ人数不足に抗議して街頭に繰り出した……もし誰かが労力を惜しんで収集・アーカイブしていなければ、これらの出来事はまるで「一度も起きなかったこと」のようになっていたかもしれない。

---

[1] https://freedomhouse.org/report/china-dissent-monitor/2025/issue-11-october-december-2025

[2] https://freedomhouse.org/expert/kevin-slaten

20 世紀の最初の 10 年間、こうした「群衆的事件」は爆発的に増加した。外部で広く引用されてきた公式データの一群によると、2003 年から 2005 年の間に中国で発生した群衆的事件の数はそれぞれ年間 5.8 万件、7.4 万件、8.7 万件であった[3]。経済が飛躍的に発展する一方で、社会的不公正を生み出す要因は解決されず、集団抗議や陳情活動が絶え間なく続いた。しかし中国の公式見解においては、それらは公務執行妨害、多数による社会秩序の撹乱、集団的騒乱などの治安事件と同義とみなされた。

2003 年に就任した胡錦濤国家主席は「和諧社会の構築」をスローガンに掲げ、その年の年末の全国公安会議において「人民内部の矛盾に起因する群衆的事件は、現在、社会の安定に影響を与える際立った問題となっている」と公に発言した。

「群衆的事件」という言葉自体が「極めて党国体制」的な用語であり、ガバナンス工学的な視点が色濃く反映されたもので、2009 年には『党的建設詞典（党建設辞典）』にも収録された。2010 年、ケビンは交換留学のため中国・青島に赴き、工場での調査や労働 NGO でのインターンを経て、徐々に中国研究に取り組むようになった。こうしたマクロデータは、彼が「中国の民間社会で何が起きているのか」を理解する助けとなった。

しかし、公式統計データの公開は 2012 年でストップしている。中国社会科学院が発表した 2012 年の『社会藍皮書』でも、「中国では様々な社会矛盾に起因する群衆的事件や衝突が毎年数万件、時には 10 万件以上も発生している」とおおざっぱに言及されるにとどまった。

「非新聞（Non-News）」の登場は、この空白の一部を埋めることになった。同プロジェクトはインターネット上から集団闘争事件を可能な限り収集・アーカイブすることに注力し、2012 年から 2016 年まで運営を続けたが、創設者の盧昱宇と李婷玉が逮捕され中断した。

「挑発分子」にされた先駆者たち

「非新聞」はその名の通り、ニュースにならない出来事を指す。盧昱宇は、「非新聞」が始まった 2012 年のことを鮮明に記憶している。烏坎での事件は〔村のトップを選挙で選びたいと訴えた村民らの闘争〕、中国の村民自治や末端民主主義への関心を呼び起こし、薄熙来の失脚は「打黒唱紅（マフィア撲滅と革命歌奨励運動）」の破綻を一時的に告げた。微博（ウェイボー）上では、「郭美美の赤十字会での富の誇示事件」や「オレのオヤジは李剛だ」といった事件で、世論の波が最高潮に達していた。知識人から一般人にいたるまで、この国のあらゆる場所で何が起きているのかに、誰もが関心を寄せていた。

盧昱宇もこのうねりの中に足を踏み入れた。2012 年 5 月、多くのネットユーザーの関心と助けを借りて、人権弁護士の陳光誠が北京のアメリカ大使館へ亡命した際、盧昱宇は彼を支援しようと T シャツを印刷した。印刷店の店主ですらその事件を知っていた。年末になると、「官僚の財産の公開」を求める民間の声が非常に高まり、1000 人以上の市民が署名した建議書を提出し、盧昱宇も上海の街頭でプラカードを掲げて立った。しかし、それに伴って警察からの嫌がらせが始まり、彼は身を隠す生活を送るようになった。

盧昱宇の回想によれば、彼はそれまでこうした事に携わったことがなく、公共空間に現れるすべてのものに強い関心を抱いていた。微博では集団抵抗に関する情報を頻繁に閲覧し、当初これらの人々が彼に与えた印象は「非常に激しいもの」であった。出稼ぎ労働者の賃金未払い、強制立ち退き事件、都市管理の執法に起因する集団抗議事件など、現場の様子はすさまじく、群衆と執法関係者が乱闘に発展することも珍しくなかった。

興味本位から、彼は検索を試み、さらに多くの情報を収集したいと考え、まるで子どもの頃の何らかの「収集癖」を満たしているかのようだった。最初の年の年末までに彼に深い印象を残したのは、出稼ぎ労働者の賃金未払いの数が想像を絶するほど多いということであった。当時、彼は福州のプラスチック工場で働きながら、微博で集団抗争事件の収集を続け、徐々に一部のネットユーザーからの励ましをも受けるようになった。その後、彼はさらに雲南へと転々とし、次第にこの活動に専念するようになった。

盧昱宇は人と交わるのがあまり好きではなく、自分は短気だと語る。学生時代には喧嘩をして大学を中退し、多くの工場を渡り歩いてライン工としても働いた。「怒ったら、すぐに辞めてしまうような性格だった」。こうした性格が、むしろ単調で退屈な収集とアーカイブの作業において、自分に適した居場所を見出すことになった。

当時、盧昱宇が主に利用していたソーシャルメディアは微博（ウェイボー）、QQ 空間、百度貼吧などだった。盧昱宇が検索したのち、パートナーの李婷玉がそれをダウンロードし、ブログにアップロードして保存していた。しかし、政治的環境の厳しさは急速に高まり、周囲のネットユーザーが「お茶に誘われる（警察から呼び出しを

---

3 https://www.mac.gov.tw/cn/News_Content.aspx?n=C07A4E0160AC69CE&sms=B69F3267D6C0F22D&s=FC14BE20E9DEEDE9

受ける)」頻度が増えていることに盧昱宇は気づいた。2015 年には労働 NGO に対する「一斉摘発」やフェミニズム・アクティビスト「女権五姐妹」の逮捕が相次いだ。彼は不安を覚え、国外への移住に関する投稿を見るようになったが、大部分の時間は依然として収集とアーカイブに追われており、実際には移住の準備をすることは一度もなかった。



「非新聞」は中国各地の市民の抵抗事件をブログ上で保存したが、その記録は 2016 年 6 月、2 人が逮捕された日でストップしている（「非新聞」のブログより）[4]

2016 年までに、盧昱宇は「騒乱挑発罪」で逮捕・起訴され、懲役 4 年の実刑判決を受けた。李婷玉は懲役 2 年、執行猶予 3 年の判決を受けた。

4 年間で収集した 7 万件余りの事例のうち、裁判所が不備があると指摘したのはわずか 8 件の情報のみであった。盧昱宇の記憶では、実際に根拠があったといえる指摘はたった 1 つだけだった。「ある村の名前を、隣の村名に書き間違えていたことくらいです」。彼は法廷でかつてこう語った。「あなた方の『8 件（8 日）の微博の誤りをもって 4 年の実刑とする』という基準に従うなら、私の刑期は 3 万 5000 年になるはずだ」。

この 4 年間、盧昱宇はほとんど休んだことがなかった。「一日たりとも欠かしたくありませんでした。365 日いつでも何かしら事件は起きるのだから、ニュースが一日たりとも欠けることはどうしてもいやだったんです」。そのため入獄した当時、彼はすでに心身ともに疲弊しきっていた。出所後の最初の 2 年間、彼はこの活動を再びやろうとはほとんど考えなかった。「再びやれば、絶対にまた捕まってしまうからです。出所後、自分には PTSD（心的外傷後ストレス障害）のような症状もあり、回復が必要でした」。

友人からドキュメンタリーの素材探しを手伝ってほしいと頼まれるまで、彼は現実の映像を前にしてなお「原始的な衝動」や切迫感を抱く自分に気づいた。「これらのものは消えてしまいます。10 年前と比べても寿命が短くなっており、わずか数時間や数分で削除されてしまえば、もう何も残らないからです」。

抗議者たちの声が持つこうした「一瞬ではかない」危機感こそが、彼が「非新聞」を始めた当時の原動力そのものだった。2012 年の微博は、アルゴリズムによるレコメンド機能が現在ほどスマートではなく、多くの抗議活動の画像はほとんどフォロワーのいないアカウントによって投稿されていた。「小規模な抗議の多くは、投稿したアカウントに影響力がなければ他の人には見えず、大半はそのまま埋もれていってしまうのです」。

2023 年、過酷な密航と不法ルートによる国外脱出を経て、盧昱宇は無事にカナダで政治亡命の資格を獲得し、その直後にかつての活動を再開した。彼はプロジェクト名を「昨日（Yesterday）」に変更した。時差の隔たりにより、彼がネット上で目にする多くの投稿のタイムスタンプが「昨日」と表示されていたためである。

「昨日-中国集団抗議事件の記録」というホームページで[5]、盧昱宇は、このプロジェクトが「真実の歴史を保存すると同時に、人々に抗争の持続的な存在とその巨大な規模を知ってもらい、抗議行動に参加することへの恐怖心を和らげること」を願っている、と記している。

---

[4] https://newsworthknowingcn.blogspot.com/

[5] http://yesterdayprotests.com/



「昨日」の YouTube プラットフォームのメインページ。同プロジェクトは 2023 年 1 月にスタートした（出所：YouTube[6]）

抗議行動に関するショート動画の BGM は耳障りだが効果的

盧昱宇は現在 49 歳で、カナダのカルガリーに暮らしている。大部分の時間は猫と一緒に引きこもり、日夜パソコンに向かって映像の捜索、ファクトチェック、アーカイブ作業を続けており、長年の歳月を経て、もはや感情の起伏もほとんどなくなっているという。

彼は、人々の権利擁護のやり方に変化が生じたことを感じ取っている。盧が投獄される前の 2016 年、人々はまだ「何月何日、どこで、誰がどのような理由で抗議行動を行っているのか」を明確に書き記すことができていた。しかし、彼が出所した 2020 年になると、テンセント微博はすでにサービスを停止しており、抖音（Tiktok）や「快手」が低価格帯の市場（田舎の県や鎮、および農村部）へ次々と進出していく中で、抗議する人びとはショート動画に文字を添えてその場の経験を記録するようになっていた。さらに数年が経ち現在に至っては、文字説明すら消え失せた。盧が目にするのはしばしば、抗議活動の緊迫した雰囲気とはおよそ釣り合わない、騒がしい音楽が添えられた動画画面のみである。

「昨日（Yesterday）」と異言網が共同で収集したある事例がそれを物語っている。2025 年 5 月、深圳市の緑景白石洲璟庭プロジェクトの数百人の労働者が、不動産開発業者に対して賃金未払いの解消を求めるため、集団で出入口を封鎖する抗議を行った。労働者たちが現場で録画した数百人がヘルメットをかぶって集まる動画には、後からネット上の楽曲が BGM として追加されていた。「～誰が日雇い労働の厳しさを知ろうか、誰が労働者の稼ぎの大変さを知ろうか、涙が流れ落ちて海原となる、すべてはこの一杯の飯のためなのだ」。



「昨日」が 2025 年 5 月に収集した、深圳緑景白石洲璟庭の工事現場の労働者による賃金未払い事件。動画は労働者自身が撮影したもので、「昨日」はそれを基に動画素材や背景を整理して提供している（出所：YouTube）[7]

当初、盧昱宇にとって、そうした唐突な BGM を理解するのは難しかったが、のちにこれがプラットフォームの検閲を逃れるためのものだと気づいた。しかしその一方で、人々が一体どのようなスローガンや要求を叫んでいるのかがしばしば聞き取れなくなり、検証作業の難易度を大いに高める原因にもなっている。

---

[6] https://www.youtube.com/@YesterdayBigcat

[7] https://www.youtube.com/watch?v=8MJTiY6XErA

ケビンも同様の変化を観察している。彼は、時間、場所、事由のいずれも記されていない、スタートも終了もはっきりしない動画を目にすることがよくある。「今日投稿されたからといって、今日起きたとは限らないのです」。動画のコメント欄には、「何があった？」と書き込む者もいれば、「言えない。言ったら（投稿が）表示されないんだ」と返信する投稿者もいる。

下獄前、盧昱宇は膨大な図書・テキスト資料を保存することがますます手一杯になっていることに気がついていた。ショート動画の氾濫により、この作業はさらに困難なものとなった。「これだけのウェブサイトを買ってそれらを保存するだけの資金はないし、ダウンロードには時間がかかる」。しかし利点として、動画の情報量はテキスト時代のそれよりもはるかに豊富であるという点があった。

盧昱宇の回想によれば、「非新聞」の時代、もし情報が関心度の低いアカウントからのもので、かつ小規模な事件に関わるものであれば、「（当事者が）わざわざ事件を捏造する動機を見出すことは実際難しかった」。一方で、大規模な抗議行動であれば、情報源は往々にして非常に豊富であり、権利擁護者が公開した内容だけでなく、傍観者が記録した映像や描写も存在し、互いに裏付けを取ることができた。当時、当事者に直接プライベートメッセージを送って情報を確認することは難しくなかった。だが現在では、安全上の配慮から、盧昱宇は自ら抗議行動の参加者らに連絡を取ることをやめている。異言網は「抗争者に絶対に連絡してはならない」を業務規程に書き込んでいる。

詳細の不明な事件について、異言網では保守的なアプローチをとる。「間違った記録を残すことは怖い事です。もしある記者が私たちになぜ特定の案件を収録したのかと尋ねてきたとき、私たちは証拠を示さなければならないからです」。

「昨日（Yesterday）」では、まず時間と日付を特定し、抗議者の身分や抗議の理由については「不明」とマークすることがある。今年 1 月から 6 月にかけて、「昨日」は計 348 件の集団抗争事件を公開したが、これはスクリーニングと検証を経た結果である。過去 3 年間で、「昨日」は約 5 万件の集団抗争事件に関する動画資料を収集したものの、長編動画への編集や背景解説の整理を行って公開されたものは 1600 件余りにとどまる。

盧昱宇はまた、「大規模な事件の動画では、事件の大まかなタイムラインを確定させるために、何百件もの動画や情報源を使用しなければならない」と述べている。その中で最も有名なのはおそらく 2025 年に発生した江油事件〔四川省江油市の中学生がいじめを受けた動画が拡散され、当局の無策に市民らが怒り抗議に発展した事件〕であり、「昨日」が制作したドキュメンタリーは YouTube チャンネルだけで 356 万回再生を記録した。

ケビンの観察によれば、中国政府にとって「抗議行動＝権利擁護（維権）活動」は NG ワードではなく、むしろ非常に広範な概念だという。「検閲官は権利擁護の投稿を重点的に観察しますが、すべてを削除するわけではありません。例えば弁護士の権利擁護活動、裁判所への提訴、消費者苦情通報ホットラインへの電話などはすべて権利擁護活動の範疇です。『正規のルート』を通じた権利擁護の活動こそ、政府の望む権利擁護の活動なのです。

彼は、権利擁護の活動に関する投稿の選別、削除、そして保持は、「制度のルールによる抗議を通じて権利を擁護するのであって、単なる抗議行動でないのであれば、政府は容認する」というメッセージを市民に伝えることを中国政府が意図しているためだと考えている。異言網による異議申し立て行為の定義に基づき[8]、同サイトは上記の制度的ルートを通じた抗議行動については、その行動が当局の弾圧を招いた、あるいは招くおそれがある場合を除き、基本的に収録していない。

中国のソーシャルメディアに長期にわたり観察するなかで、ケビンもまた、強力な検閲のもとにあるこの国の人民のもう一つの側面を目撃している。「中国の人々は多くの国の人間と同様に、政治的観点や見解が非常に多様であり、世間一般に言われているように、過度に恐れていたり物を言う勇気がなかったりするわけではありません。それどころか、異論は実際には非常に豊富で、皮肉に満ちたクリエイティブな表現も数多く存在するのです」。

「もちろん、検閲官が彼らのコメントを削除してしまう前に見に行かなければならないのですが」とケビンは付け加えた。

権利擁護の活動では「経済問題は常に重要な役割を果たしている」

完全とは言えない民間の抗議データベースは、中国の現実と経済情勢を垣間見せるもう一つの窓口となっている。

異言網と「昨日」の双方が言及しているように、労働者の権利擁護活動と住宅購入者の権利擁護活動は、常に最も主要な 2 つの抗議活動として存在し続けており、「経済問題は常に重要な役割を果たしています」。この構図は

[8] https://chinadissent.net/zh/about

過去 20 年余りにわたってほとんど変化していない。

2023 年初頭、「ゼロコロナ」政策が終了した後、異言網は労働者による抗議活動が増加していることに気づいた。当時、彼らはこうした抗議活動が中国の広範な景気後退に関連している可能性があると分析していた。2025 年下半期に至るまで、彼らが 2 年間のデータを比較したところ、2025 年上半期に記録された労働者の抗議事件は計 1219 件に上り、前年同期比で 66%増加していることが判明した。

盧昱宇の説明によれば、賃金未払いをめぐる権利擁護の事例は、景気低迷の最も顕著な表れである。もしある工場が単なる経営不振で破産し、従業員の給与を満額支給していれば、通常は抗議を引き起こすことはなく、抗議事例として収録されることもない。労働者の抗議型の権利擁護活動は、往々にして追い詰められた末の結果なのだと彼は説明する。「雇用機会は以前とは比べものにならないくらい減少しています。以前なら一つの仕事を失ってもまた別の仕事を探すことができ、（多くの人々が）必ずしも抗議行動による権利擁護活動を選択するわけではありませんでした。しかし現在では、ひとたび職を失えば、次の仕事を見つけることは極めて困難です」。

異言網の統計によると、2025 年上半期に不動産に関連する抗議行動は計 220 件記録されており、2023 年および 2024 年の 2 倍に達している。ケビンは当初、こうした抗議は主に建設が中断したマンションに集中していると考えていたが、具体的な事例を整理したところ、管理会社に対する抗議も明らかに増加しており、その多くは管理費の値上げといった経済問題に関連していることが分かった。この現象が注目されることはめったにない。彼は、これが管理会社の全般的な収益悪化や自主財源確保へのプレッシャーの高まりに関連しているのではないかと推測している。

2024 年中頃、異言網は不動産関連の抗議行動について体系的な分析を行ったことがある。当時、住宅関連の事例は同サイトが収録した抗議事件全体の 44%という、高い割合を占めていた。そのうちの半分以上は住宅購入者によるもので、主に開発業者の工事中断や、その他の約束の不履行に関わるものだった。残りの大部分は建設作業員によるもので、開発業者に対して未払い賃金の支払いを要求したものの、開発業者が支払能力を持たない、あるいは支払いを拒否しているという事件であった。これらの事例のうち、少なくとも 106 件が碧桂園（Country Garden）グループ、71 件が中国恒大グループに関係していた。

一部の抗議は、中国の秘められた経済情勢の変化と関連している。2024 年末に改正された会社法により、前株主が株式を譲渡していた場合であっても、譲受人が期日通りに出資を行わなかったことに対する補充責任を負わなければならないことが規定された。その後、中国の 11 の地域にある高級裁判所の周辺で抗議活動が発生し、関連動画が一時は抖音〔Douyin、動画サイト〕に流出したものの、その後速やかに削除された。また、各地のバス運転手によるストライキの事例のように、地方財政危機に関連している可能性が指摘されるものもある。

「Women 我們」が、異言網の第 1～11 号までの報告書を精査したところ、そこに収録された多くの事件が報道と一致している。例えば、2022 年 6 月から 9 月にかけて収録された 214 件の事件（32%）は、マンションの工事中断および引き渡しの遅延に関わるものであった。この時期、中国の主流メディアは、「亮亮麗君（リャンリャン・リーチュン）夫妻」という著名な事例を含め、工事中断物件をめぐる権利擁護の抗議事件を広く報道していた。2023 年 11 月、鄭州で懸命に働き暮らしていたこの若い夫妻は、全財産を投じて購入した融創中国の分譲マンションの工事が中断したため、ソーシャルメディアを通じて動画を公開して自分たちの権利を守ろうとしたところ、正体不明の人物から暴行を受け、複数のプラットフォームでアカウントの更新を禁止され、結局は落胆して鄭州を離れる〔マンションの権利をあきらめる〕と発表した。



2023 年 11 月、鄭州の動画ブロガーである亮亮・麗君夫妻が、融創中国のモデルルームで正体不明の人物から暴行を受けた。2 人は権利擁護活動の全過程を動画で配信していたが、その後複数のプラットフォームで更新禁止処分を受けた（出所：ネット画像）

しかし後になるにつれて、異言網が収録した事件やトレンド分析は、国内のメディアやサイトでは見つけることができなくなった。昨年の数件の大規模な抗議、例えば江油事件などは、報道されないだけでなく、ショート動画プラットフォーム上でも厳格な検閲の対象となった。「あの時期には、地方都市（地級市）の綿陽市ですら検閲のキーワードになっていた」とケビンは振り返る。

大衆的事件であれ、抗議活動による権利擁護であれ、いずれもここ 10 年の間に中国の公共空間から徐々に姿を消していった。2005 年初頭の時点で国務院は「国家突発公共事件全体緊急時対応計画」を公表している。その後の 20 年間にわたり、大衆的事件をめぐる緊急時対応のメカニズムは絶えず更新されてきた。そして今日に至るまで、各級の政府部門、学校、国有企業、商業施設などでは「大衆的事件緊急時対応計画」が広範囲に整備されてきた。

では抗議活動にどのような成果が残っているのだろうか。難しい問いである。しかしケビンは、コメント欄で抗議者たちが自らの経験を披歴している光景をよく目にするという。「どうすれば未払い賃金や補償金を手に入れられるか。こうすべきだ…」と。ケビンにできるのは、「毎年数千件、あるいは 1 万件もの抗議が起きているが、人々がなぜこれほど大きなリスクを冒してまで抗議するのかといえば、おそらく多少なりとも結果が出ているからではないでしょうか」と推測することだけである。

労働者たちは自分たちの物語が世界に発見されることを望んでいる

昨年 6 月、香港を拠点とする中国労工通訊（China Labour Bulletin）は、財務上の困難を理由に活動を停止すると発表した。1994 年に設立されたこの NGO は、中国の労働者に関する情報を世界に向けて継続的に発信してきた。中国の草の根労働運動が活発化し、そして弾圧された変化の時代において、中国労工通訊は海外で中国労働者の状況や労働環境の変化を把握するための、最も信頼できる情報源であり続けた。

異言網もまた、厳しい試練を乗り越えてきた。2025 年初頭、トランプ政権による多額の助成金凍結の影響を受け、異言網が所属するアメリカの人権団体フリーダム・ハウス（Freedom House）が打撃を受けたため、異言網は一時期、やむを得ずウェブサイトの更新を停止せざるを得なくなった。これにより、2025 年上半期に予定されていた 2 つの四半期レポートに「空白」が生じることになった。

異言網の活動は、生身の体で巨大な検閲マシンに立ち向かうような作業である。このチームは常に少人数であり、アナリストは 3～4 人しかいなかった。「まさに必死でデータをかき集めていました」。「たとえ抗議というテーマに非常に強い関心を持っていたとしても、何時間も連続してパソコンに向かい、同じようなものを探し続けるのは、やはり苦痛なものです」とケビンは語る。

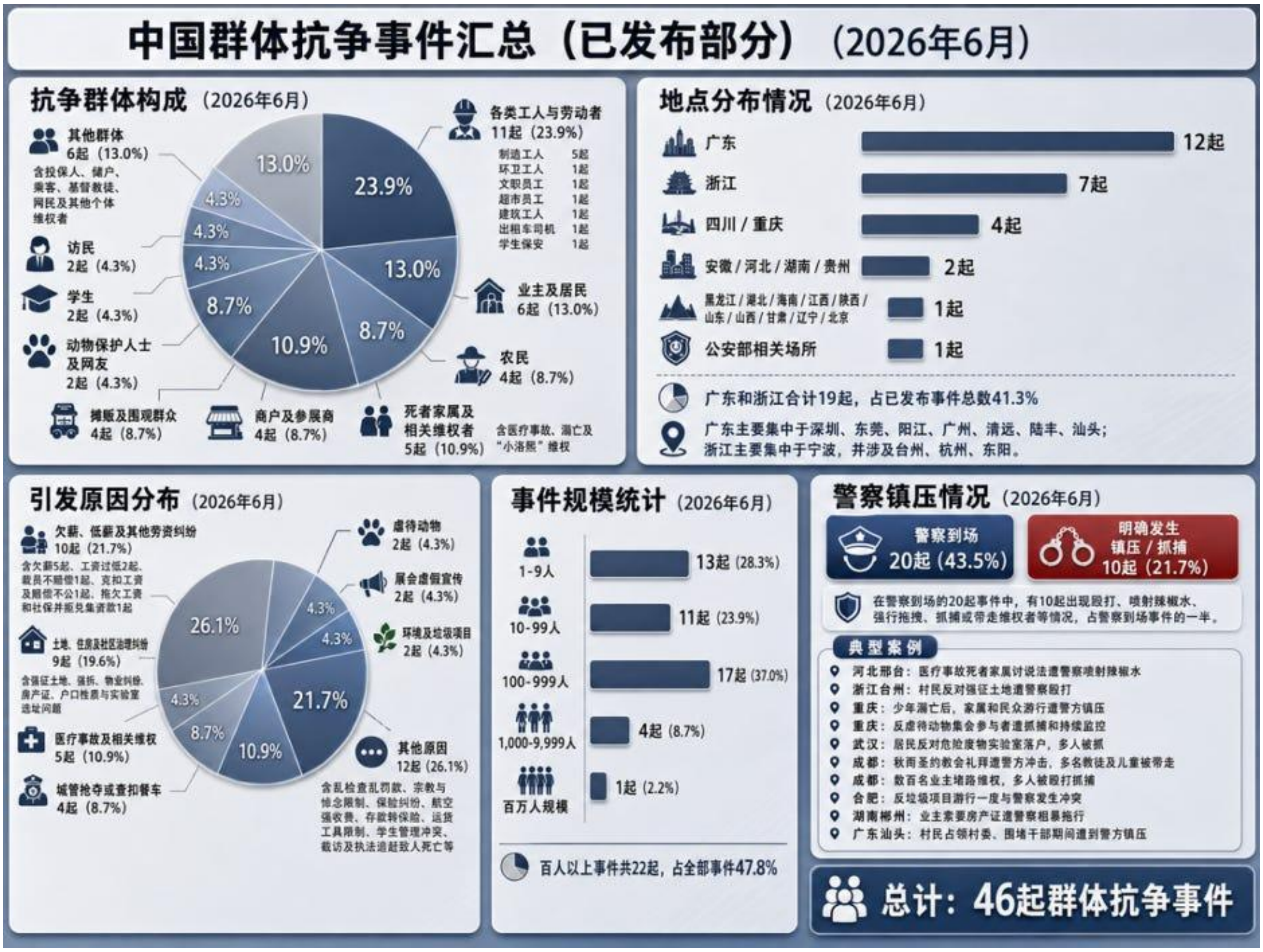
「人権の観点から言えば、これは情報の自由であり、中国の人々はいつ、どこでこうした出来事が起きているのか、そしてそれが自分たちの生活の中で直面する状況とどう結びついているのかを知る権利を持っています」。長年にわたり異言網の運営を続けてきた理由について問われると、彼はこう答えた。「自分の抗議の声を、他の人に届けてほしいと望むのは、当たり前のことです」。

「中国は非常に大きな国であり、一つの物語や一つのデータからこの国のすべてを理解することは不可能です。多くのデータと長い時間が必要です。（私たちが収集する）期間が長ければ長いほど、資料全体が持つ研究としての価値は大きくなります」。

しかし、高度に検閲化された国家において、統計データ自体もまた干渉を受けることになる。「政府の検閲は一定期間ごとに変わります。発見されるデータ数が減少したとき、本当に事件が減少しているのか、それとも検閲が強化されて見えなくなっただけなのかを判断することはできません」。ケビンは例として、2024 年第 1 四半期に異言網が収集した抗議事件の数が急減したことを挙げた。年末になってようやく、一年を通じてデータを比較することで、その四半期のみに明確な減少がみられることに気がついたという。このことから、これが当時の春節期間中に実施されたネット上の「クリーン＆クリア行動」（検閲）に関連している可能性が高いと推測した。

盧昱宇もまた、統計やデータ分析が中国の現実を提示する上で持つ重要性に同意している。2024 年 1 月、「昨日（Yesterday）」の開設 1 周年に際し、彼は年間統計を作成し、それを 10 年前のデータと比較しようと試みたが、「この計画が巨大すぎて時間が足りず、1 ヶ月作業しただけで中断してしまいました」。今になってその当時を振り返り、彼は人間の力の限界を受け入れている。「10 人分の仕事を一人でやり通すことはできません」。彼は、過去 3 年間で収集した抗争資料の容量が 2 テラバイトに達していることに言及した。

しかし今年 1 月以降、「昨日」は、データ分析の作業を再開し、その月に発表された集団抗議事件の月別まとめと分析を定期的に行い、「抗議集団」「場所」「事件の規模」「発生原因」「警察による弾圧状況」などの項目に分けて一つひとつ分析を進めている。



「昨日」がソーシャルメディアで発表した 2026 年 6 月の中国集団抗議事件のまとめ。当月は計 46 件の集団抗争事件が発生したと統計されている（図：昨日のサイトより）[9]

データ統計のほかにも、ケビンがより重視しているのは、国家レベルでの弾圧や暴力についての議論にとどまることなく、プロジェクトを通じて「人々の行動や声」を提示できるかどうかである。これは、彼が異言網の立ち上げを準備したときに掲げた目標であり、この仕事において最も重要だと考えている部分でもある。つまり、抗議事件は他の人々に持続的な影響をもたらすのかどうか、という点だ。

「多くの人は抗議行動を狭く捉えがちです。つまり、目標を達成できなければ意味がないと考えてしまうのです。しかし実際はそうではありません。抗議のプロセスが当事者を変えるのです。一つの抗議に参加すれば、二つ目の抗議にも参加するかもしれない。これらの中国人がどのような理由であれ抗議に参加し始めたのであれば、彼らは無意識のうちに変化していくのです」とケビンは言う。

「抗議は往々にして、個人の政治意識の変化の始まりです」。ケビンは「非中央集権的な運動」が起きる可能性についてこのように捉えている。「ある問題が社会のすべての階層に影響を及ぼすとき、人々は一緒に立ち上がって抗議します。そして歴史が証明しているように、抗議の規模が十分に大きくなれば、検閲は困難になるか、あるいは検閲のスピードが追いつかなくなります」。

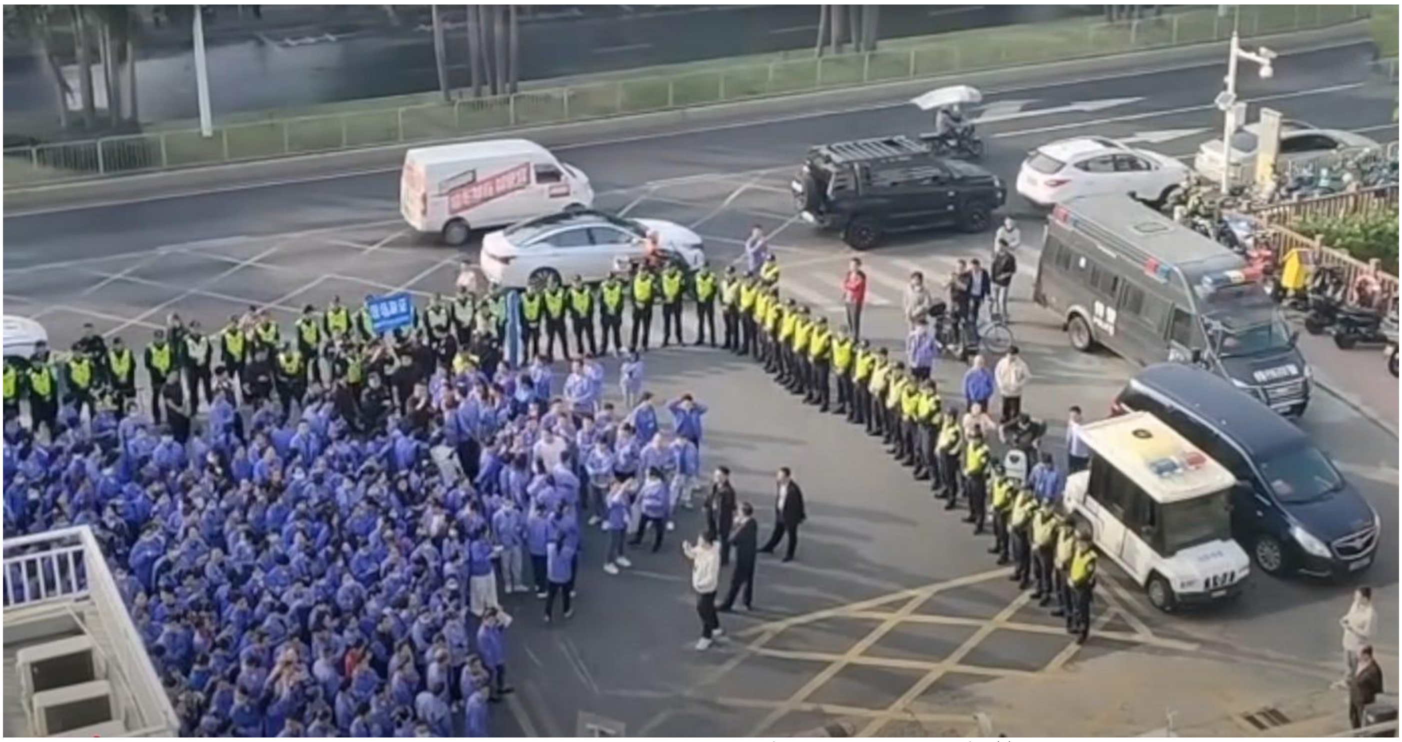
2025 年末、工場の受注減少と労働者の賃金低下に伴い、深圳市の易力声（ELSA）工場では数千人の労働者による 1 週間にわたるストライキと抗議行動が発生した。オーストラリアのスカイニュース（Sky News）の記者がカメラを担いで抗議する労働者たちの前を通り過ぎたとき、労働者たちはレンズに向かって手を振り、大きな歓声を上げた[10]。

ケビンはこの動画を我々「WOMEN 我們」に送ってきた際に、次のようなメッセージを添えた。「労働者たちは自分たちの物語が世界に見つかることを望んでいるのです」。

---

[9] https://yesterdayprotests.com/category/%e9%9b%86%e4%bd%93%e6%8a%97%e4%ba%89%e6%b1%87%e6%80%bb/

[10] https://news.sky.com/video/voicing-dissent-in-china-is-risky-but-its-rising-dramatically-13493277



2025 年 12 月、深圳・易力声工場の労働者によるストライキの現場（出所：ネット画像）[11]

（本記事は 2026 年８月５日に更新しました）



「WOMEN 我們」を購読する

４年前に立ち上げられた「WOMEN 我們」は、検閲のない中国語で現代史のはじまりを綴る「想像の共同体」です。ぜひ購読してください。中国の検閲システムの内側にいる友人へも、メールマガジンの登録を宣伝してください。寄付や記事のシェアも心よりお待ちしてます。

情報提供や、ライターとして参加を希望される方は、chugaofirstdraft@proton.me までご連絡ください。情報セキュリティの保護に全力で取り組みます。

---

[11] https://x.com/YesterdayBigcat/status/1996841195562283012